★ミルキーホーム東菅野園が十一月十七日の千葉日報に掲載されました★

（日刊）　2017年（平成29年）11月17日（金曜日）

市川市の課題
11・26市長選へ

待機児解消なお遠く
認可園整備と人材確保を

江戸川を挟んで東京都に隣接し、都内へ通勤・通学する“千葉都民”も多い人口約48万人の市川市。親世帯と離れて暮らす核家族化や、共働きしながら子育てする若い世代の増加などを背景に、保育園の入園希望者が殺到し、認可園を増やしても、入園できない「待機児童」の数が膨らみ続けている。19日告示、26日投開票の市長選を前に市の現状と課題を探った。

（市川支局　篠塚紀子）

市の待機児童数（4月1日現在）は全国ワースト4位の576人。昨年度、0～2歳児の小規模保育事業所や認可園の整備を急ピッチで進める緊急対策を打ち出し、千人規模で保育定員を拡充した。本年度は新たに約20園増やし、2018年度までの2年間で2千人増の1万人とする計画だ。

定員6に36人

JR本八幡駅から徒歩25分ほどの閑静な住宅街。0～5歳児を対象にした定員60人の認可園「ミルキーホーム東菅野園」が今月1日に開園した。初年度は保育需要の高い0～2歳児25人を受け入れ、月～土曜日の早朝から夜まで預かる。

「入園希望者が多く、全員を受け入れられないのは心が痛い」と話すのは、運営会社サニースタッフ（柏市）の担当者。0歳児の入園希望者が最も多く、定員6人に対し、事前説明会に集まったのは36人。低年齢児ほど、保育士1人で見られる人数が少なく、待機数が多いのが実情だ。市全体でも待機児の約9割を0～2歳児が占める。

市では保育士確保のため、1人当たり月6万4千円の賃金加算や家賃補助も導入。それでも「より待遇が良い都内へ人材が流出しがち」（同社）という。

首都圏で約30の保育施設を展開する同社では、県部を持つ菅原百合子園長（72）は「都市部の密集地域では、近隣トラブルも起きやすい。辛抱強く相手の意見に耳を傾け、子どもの健全育成のために理解を得ることが大切」と話す。

都市部の難しさ

今回の新園開設にあたり、同社は総武線の駅前でも物件を探したが、予算面で折り合わず断念。駅から離れた場所でも地価が高く、広い園庭は望めなかった。同社は「通勤途中に利用できる駅前は保護者にとって便利だが、物件価格が高く保育事業者は手が出しにくい」と、自治体の補助拡充を望む。子育て世代の負担感を減らし、子どもたちが伸び伸びと育つために何が必要なのか。実情に見合った迅速な対応が求められる。

同園の目と鼻の先で昨年春、開園予定だった園が住民の反対で建設中止となった問題は、都市部で保育園を新設する難しさを露呈した。同園でも、開園後に子どもの声などに関する苦情を受け、外遊び時間を区切るなどの対策をとった。

今月開園した認可保育園の1歳児の保育ルーム＝13日、市川市東菅野